

としょかん ばらば 4・5・6



これからの^{きせつ}季節は、秋のおいしいものやクリスマス、お正月など楽しいことがいっぱい。
冬に向かってだんだん寒くなるけど、あったかいお部屋で読むのにいい本を紹介するよ。^{しょうかい}



秋から冬に読みたい本



「葉っぱのフレディ」

レオ・バスカーリア／作
童話屋 93ハ

葉っぱのフレディは春に生まれ、夏には、りっぱな体に成長しました。友達の葉っぱもたくさんいます。夏の間、とても幸せでした。ところが秋になって、葉っぱの色が変わり寒さにふるえるようになって…。



「冬のスイーツ」

大森いく子／作
金の星社 59オ

冬は、家族や友だちと集まることも多いね。そんなときに手作りのスイーツを用意してはどうか？ひめりんごを使った「べっこうキャンディー」。和菓子が好きなら「いちご大福」もいいね。

クリスマスの「ブッシュ・ド・ノエル」は火を使わないから初めてでもできそうだよ。



「雪の女王」

アンデルセン／作
福音館書店 94ア3

「雪の女王」と聞くと、映画の「アナと雪の女王」を思い浮かべるかな…。この「雪の女王」は、アンデルセンがつくったおはなしで、ゲルダという女の子が主人公。カイという男の子を助けるために

冒険の旅へ。この世界の雪の女王も出てくるし、氷のお城もあり。

この本には、クリスマスのおはなし「マッチ売りの女の子」も入ってるから、今の季節に読んでみてね。



「もののはじまりシリーズ6 クリスマスの始まり」

左方郁子／文
ポプラ社 03モ6

クリスマスにくつ下を飾っておくと、サンタクロースがプレゼントを入れてくれます。けれど、クリスマスの始まりを知っているかな。

この本を読めばクリスマスや、サンタクロースのことが、よくわかります。それから、大みそか、お正月の始まりもわかります。



「日本の昔話 5 ねずみのもちつき」

小沢俊夫／再話
福音館書店 913オ5

「むかし、あるところに…」この言葉から始まる日本の昔話を聞いたことがあるよね。たくさんある昔話の中から、冬向きのものが入っているのがこの巻です。シリーズで出ているので気になる昔話があったら、巻末の索引で調べられるよ。





新しい本をピックアップ

なぜ・ふしぎ探究 たんきゅう へん 編

「なぜこう見える？どうしてそう見える？錯視のひみつにせまる本1～3」

こどもくらぶ／編 ミネルヴァ書房 14ナ1～3

目の錯覚で同じ長さの2つのものが違う長さに見えることがあります。これを「錯視（さくし）」と言います。1巻は「錯視の歴史」で、これまで研究者が発見した数々の錯視が見られます。シリーズ本で、2巻「錯視と技」、3巻「錯視と科学」があります。



「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。」

石井光太／作 ポプラ社 37コ

なぜ学校に行くのか考えたことがありますか。みんなが行くから？義務教育だから？ノーベル平和賞を受賞したパキスタンの少女、マララ・ユスフザイさんの演説から考えてみよう。

「大研究カイコ図鑑」

国土社編集部／編 国土社 63タ

2014年、カイコのマユから生糸（きいと）をつくっていた富岡製糸場が世界遺産になりました。カイコは、イモムシみたいな虫で、この本を読むと成長の様子や飼いか方もわかります。



「科学しかけの貯金箱自由研究BOOK」

立花愛子・佐々木伸／著 いかだ社 75タ

お金を入れて動く貯金箱があると、楽しくお金が貯められます。コインを入れると今日の占いができるもの、だんだん羽を広げていくトリなど30種類も出ています。自分のお気に入りをつくりましょう。

「ヤンバルクイナ」

江口欣照／写真と文 小学館 488エ

鳥は空を飛びます。でも、世界中で沖縄にしかない鳥「ヤンバルクイナ」は飛べません…。飛べない鳥のふしぎな生活はどんなものなのでしょうか。



「北加伊道（ほっかいどう）」

関屋敏隆／文・版画 ポプラ社 Eセ

「北海道」は、江戸時代「エゾ地」と呼ばれ、わからない土地が多いところでした。そこを探検し、アイヌの人たちの生活を記録し、地図を書いたのが松浦武四郎です。

【図書館の利用案内】

- ★1人10冊 2週間かりられます。
- ★午前9時から午後5時まで開いています。
（大久保図書館は木曜日、午後7時まで開いています）
- ★お休みは、月曜日・図書整理日（第1金曜日）などです。
図書館カレンダーで確認してください。

大久保図書館 047-475-3213

本・雑誌は計10冊まで、
CD・DVDは2点まで
かいられます。

